

# 三年学年だより

No. 10

1月号

令和6年1月10日 発行

309HR

## 「新年おめでとうございます」

新しい一年が始まります。今月1月は、二十四節季の小寒（しょうかん）や大寒（だいかん）にあたり、これから更に寒さが厳しくなるころです。一方、七十二候では水泉動（しみずあたたかをふくむ）といい、地中で凍った泉の水が溶け、動き始めるころにあたります。まだまだ空気は冷たく、寒い時期ですが、春に向けて自然界は少しずつ動き出しています。昨年咲かなかった我が家の梅の木のつぼみも日に日に大きく膨らんでいます。2年ぶりに楽しむ梅の香りを心待ちにしている毎日です。30歳を過ぎたころから、路傍に佇む何気ない草花に目が向くようになりました。2024年辰年を迎え年男となる私ですが、ますますその傾向が強くなり、自然の営みに感動を味わい日々エネルギーをチャージしています。自宅先の小川横で鮮やかに黄色く色づくいちょうの葉。部活動が終わり体育館の扉を閉める時にみえるトワイライト。部屋の片隅で昨晚まで小さく下を向いていた赤いつぼみが見事に立ち上がったシクラメン。通勤の朝、車内に低く差し込む冬の陽光、白く輝く雲と青空。濃緑色の葉を減らしつつ寒さに懸命に耐える、試合勝利記念で購入したガジュマル。夏の暑さに枯れかけたものの見事に立ち直った教室のおじぎ草。本校4階渡り廊下から望む東の空に浮かぶ銀雪の山並み。日常の何気ない一シーンですが、二度と出会えない瞬間に感謝しながら毎日を送っています。有限な存在である私たち、そのことを謙虚な姿勢で受け止めながら、人間としてより良く生きるとはどのようなことなのか。高校生のころから抱いてきたテーマを持ち続けて今に至っています。

寒が明けるといよいよ立春になります。みなさんの春もあと少しのところまで来ています。ここまで積み重ねてきた努力は何物にも代えがたい経験であり、必ずや実を結ぶことでしょう。ラストスパート、ファイト！

(309HR担任)

\*\*\*\*\*

## 「明日に向かい 今を生きる」

「明日に向かい 今を生きる」中央生なら誰でも知っているフレーズです。

「明日に向かい」というのは、見通しを持ったり、計画や目標を立てたり、将来について考えたりと、「未来に目を向けること」といったところでしょうか。3年生になってからの9か月は、特に明日に向かって日々だったのではないのでしょうか。何かに取り組むときに先を見ることはとても大切で、目標が明確であれば、やる気も沸くし、良い結果が出る可能性は高まります。しかし、校歌はここでは終わらず「今を生きる」と続きます。つまり、「今やるべきことを実行する」ことなのです。前を向いて目標を見つつ、足元をみて着実に前進することこそ重要なのではないのでしょうか。卒業式では心を込めて校歌を歌いましょう。

頑張れ！中央生！！

(309HR副担任)